

特別展示「洛中の江戸時代」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 展示状況

はじめに 京都市考古資料館では、令和7年度前期の特別展示「洛中の江戸時代」を開催しています(写真1)。

江戸時代の京都は、江戸・大坂とともに「三都」と称される大都市でした。しかし、その実態は意外なほど知られていません。

今回の特別展示では、最新の発掘調査や研究成果に基づき、江戸時代の京都の朝廷・公家、武家、寺社、そして庶民の実像、さらに災害について紹介します。

洛中の江戸時代 江戸時代の京都は、約30万人の人口を有する国内有数の都市でした。御所や公家の

屋敷、二条城や武家屋敷、数々の寺社とともに市街地の街路沿いには町屋が建ち並び、市井の人々が暮らしていました。朝廷・公家、武家、職人・商人をはじめとして様々な職業・階層の人々が京都の社会・経済・文化・芸術を支えたのです。

公家町の姿 京都御苑内で行われた京都迎賓館建設に伴う公家町遺跡の調査では、公家町の姿が明らかとなりました。宝永の大火(1708)後、防火帯を兼ねて設定された南北方向の街路である二階町通がみつかりました(写真2)。路面幅は約



写真2 公家町の二階町通(北から)